

(注) 講師およびカリキュラムにつきましては、都合により一部変更する場合があります。

令和3年度 技術移転に係る目利き人材育成プログラム 「起業環境整備支援コース」 タイムテーブル

研修会場 : 科学技術振興機構 東京本部別館2F 会議室A (東京都千代田区五番町7 K's五番町) HP : <http://www.jst.go.jp/koutsu.html>
 開催期間 : 令和3年度 A課程 10月6日(水)・B課程 10月7日(木)
 募集定員 : 20名

(講師名: 敬称略)

課程・講師名	日程	会場	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00	
			9:15	9:40	10:00	11:10	12:10	13:10	14:00	15:00	16:00	17:00								
A課程 大学発ベンチャーの創出プロセス 【開講挨拶】 藤井 健裕 科学技術振興機構 科学技術イノベーション人材育成部 部長 【講師】 大滝 義博 株式会社バイオフロンティアパートナーズ 代表取締役社長 近藤 昭彦 神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 研究科長 先端バイオ工学研究センター 部門長 ※全体討議・グループ討議担当講師 野口 義文 立命館大学 研究部 事務部長 産学官連携戦略本部 副本部長 (兼務) 須佐 太樹 HITSプロモーター合同会社 代表社員 北海道大学 産学・地域協働推進機構 アドバイザー 古林 和典 株式会社DG TAKANO 事業開発担当	10/6 (水)	JST 東京本部 別館2F 会議室A	受付	主催者 趣旨説明・注意事項 開講挨拶	【講義①】 大学発ベンチャーと イノベーションの創出 バイオフロンティア パートナーズ 大滝 義博 グローバル化が進み、 世界を取り巻く情勢を 踏まえたそれぞれの地 域でイノベーション創 出に向けた起業活動が 展開されている。講師 の豊富な経験から、ベ ンチャー創出のために 必要なポイントを解説 する。	休憩	【講義②】 研究者から見た ベンチャー創出のポイント 神戸大学 近藤 昭彦 大学発ベンチャー創出 に向けて、研究者の視 点から見た大学等の研 究機関に必要なプロセ スなどを学ぶ。	昼食 交流会	【全体・グループ討議】 大学発ベンチャーの起業に関わる創出プロセスの把握 ビジネスプランの策定手法 (野口・須佐・古林)	ベンチャーの創出もしくは具体的な起業支援を見据える受講者が、事業戦略とプロセスをどのように捉えているかを議論する。人材や資金、起業環境等でのような課題が想定されるかをイメージし、起業する準備を行う。また、B課程で具体的な検討を行うビジネスプラン策定の準備を行う。	振り返り シート記入・ 解散									

課程・講師名	日程	会場	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00	
			9:15	9:30	10:00	11:10	12:10	13:10	14:10	15:20	15:30	16:30								
B課程 ベンチャーの事業戦略 【講師】 五ノ坪 良輔 サイアス株式会社 代表取締役 ※グループ討議担当講師 野口 義文 立命館大学 研究部 事務部長 産学官連携戦略本部 副本部長 (兼務) 須佐 太樹 HITSプロモーター合同会社 代表社員 北海道大学 産学・地域協働推進機構 アドバイザー 古林 和典 株式会社DG TAKANO 事業開発担当	10/7 (木)	JST 東京本部 別館2F 会議室A	受付	【講義①】 ビジネスプランの策定 サイアス 五ノ坪 良輔 ベンチャー企業の創出の際に重要となる「ヒト・モノ・カネ」を揃え、ビジネスの好循環を辿るにはどのような検討が必要なのかを考え、プランニング技術を学ぶ。	休憩	【グループ討議】 ビジネスプランの 具体的な検討法 五ノ坪 良輔 (野口・須佐・古林)	昼食 休憩	【講義②】 求められる ビジネスを目指して サイアス 五ノ坪 良輔	【グループ討議・発表】 ビジネスプランと事業戦略 五ノ坪 良輔 (野口・須佐・古林)	グループ発表 (60分) グループ討議でまとめられた結果を各グループで発表する。また、投資側の視点に立ち、各グループのビジネスプランについて評価を行う。	振り返り シート記入・ 解散									

(注) 講師およびカリキュラムにつきましては、都合により一部変更する場合があります。

令和3年度 技術移転に係る目利き人材育成プログラム 「起業環境整備支援コース」 タイムテーブル

研修会場 : 科学技術振興機構 東京本部別館2F 会議室A (東京都千代田区五番町7 K's五番町) HP : <http://www.jst.go.jp/koutsu.html>
 開催期間 : 令和3年度 C課程 12月8日(水)・D課程 12月9日(木)
 募集定員 : 20名

(講師名: 敬称略)

課程・講師名	日程	会場	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00	
			9:15	9:45	10:00	11:10	12:10	13:10	14:10	15:00	16:00	17:00								
C課程 事業リスクとマネジメント 【講師】 高橋 知洋 AZX Professionals Group 弁護士 松橋 俊彦 情報通信研究機構 未来ICT研究所総情報通信融合センター マネージャー ※グループ討議担当講師 野口 義文 立命館大学 研究部 事務部長 産学官連携戦略本部 副本部長 (兼務) 須佐 太樹 HITSプロモーター合同会社 代表社員 北海道大学 産学・地域協働推進機構 アドバイザー 古林 和典 株式会社DG TAKANO 事業開発担当	12/8 (水)	JST 東京本部 別館2F 会議室A	受付	9:15 9:45 10:00 11:10 12:10 13:10 14:10 15:00 16:00 17:00	【講義①】 事業リスクの把握 AZX Professionals Group 高橋 知洋	【講義②】 ギャップファンドの活用について 情報通信研究機構 松橋 俊彦	昼食休憩	【講義③】 利益相反マネジメント 情報通信研究機構 松橋 俊彦	【グループ討議・発表】 利益相反に関する課題検討 (事例含んだ具体的な対応検討) 松橋 俊彦 (野口・須佐・古林)		振り返りシート記入・解散									
			趣旨説明・注意事項	起業をするうえで必要な法的観点を理解し、資金調達時を中心に課題となるポイントを把握する。あわせて創業期のリスクなどを具体的に学ぶ。	休憩	いわゆる嵐の川や死の谷と呼ばれるような障壁を越えるため、ギャップファンドの活用について理解し、事業化へ進める手立てを検討する。	利益相反マネジメントの必要性について解説する。起業により研究の客観性や所属機関の社会的信頼へ懸念が生じるケースについて考える。	ケース事例における利益相反について、問題点や対応策について検討する。事前に確認すべき内容や問題とならうる状況をグループで検討する。		休憩	グループ発表 (60分) グループ討議でまとめられた結果を各グループが発表し、ポイントについて共有する。									

課程・講師名	日程	会場	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00	
			9:15	9:30	10:00	11:10	12:10	13:10	14:10	15:20	15:30	16:30								
D課程 起業環境を整備するうえで必要な資本政策 【講師】 服部 健一 株式会社INCJ 戦略投資グループマネージングディレクター 馬場 大輔 経済産業省 産業技術環境局 技術振興・大学連携推進課 大学連携推進室 大学連携専門職 迫而 ※グループ討議担当講師 野口 義文 立命館大学 研究部 事務部長 産学官連携戦略本部 副本部長 (兼務) 須佐 太樹 HITSプロモーター合同会社 代表社員 北海道大学 産学・地域協働推進機構 アドバイザー 古林 和典 株式会社DG TAKANO 事業開発担当	12/9 (木)	JST 東京本部 別館2F 会議室A	受付	9:15 9:30 10:00 11:10 12:10 13:10 14:10 15:20 15:30 16:30	【講義①】 投資ファンドから見た資本政策 INCJ 服部 健一	【講義②】 大学発ベンチャーを取り巻く制度・法令 経済産業省 馬場 大輔	昼食休憩	【グループ討議・発表】 資本政策に関する課題検討 (野口・須佐・古林)		【講義③】 テックベンチャーの支援戦略 迫而	振り返りシート記入・解散									
			休憩	大学発ベンチャーの資本政策のケースを通じて問題点や課題について解説する。資本政策を検討する上での基本的な事項と留意点について学ぶとともに、新たな価値を創出するベンチャーへの投資ファンドの視点を認識し、今後の投資誘引への活動に繋げていく。	休憩	大学発ベンチャーの創出に向けて用意されている制度や関係法令について把握する。	ケース事例における資本政策についてグループで検討する。	グループ発表 (60分) グループ討議でまとめられた結果を各グループが発表し、ポイントについて共有する。		休憩	テックベンチャーに支援しているファンドから具体的な出資先のケースについて伺う。コア技術や研究成果の選別・事業化までのプロセスを解説し、ベンチャーに期待する投資側の魅力視点を学ぶ。									